

# 中新里諏訪山古墳(児玉郡神川町)

前方に中新里諏訪山古墳が見えてくる



前方後円墳で左手が後円部、右手が前方部である



丁度「くびれ」の位置辺りに説明板が立っている



この図を見て分かるように一部墳丘が削られて道路となっている(図の左側)/6世紀中ごろの築造とされる

## 中新里諏訪山古墳

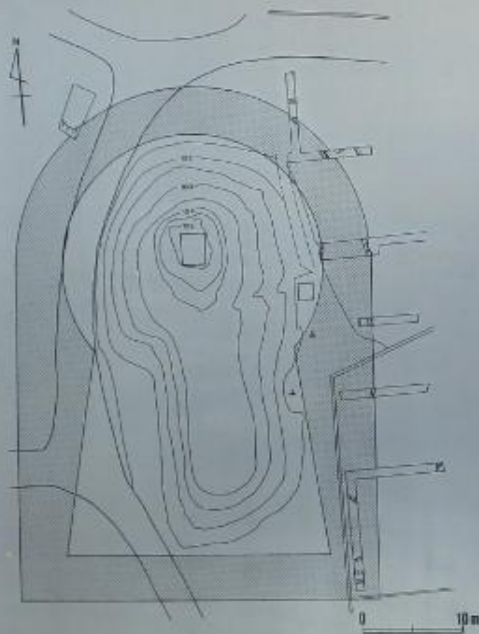
昭和六十二年三月十日 町指定史跡

中新里諏訪山古墳は、一部墳丘が削られているものの、比較的遺存状態の良い前方後円墳である。

墳丘の規模は、現状で全長約四十一メートル、後円部径約二十二メートル、高さ約三・五メートル、前方部幅約二十メートル、高さ約二・五メートルである。周溝の確認調査の結果から、全長四十二メートル、後円部径約二十六メートル、前方部幅約二十七メートルに復元できる。周溝の形態は盾型で、周溝を含めた全長は約五十二メートル、幅は約三十六メートルである。周溝からは、土器や埴輪が出土している。主体部は、後円部に位置し、南西方向に開口する

横穴式石室である。馬具・直刀・勾玉・切子玉・須恵器等が出土したと伝えられている。

この古墳は、六世紀中頃(約一四五〇年前)に築造されたこの地域の首長の墓と推定される。



昭和六十三年三月

神川町教育委員会

それでは反時計回りに墳形を見てみよう



南に立ち、前方部から後円部方向を見る/主軸はほぼ南北に沿っている



南東から/右手に後円部の墳頂にある祠が見える



古墳を背にして墓地がある





東から/左手が前方部、右手が後円部



北東から/盾形の周溝が巡っていたとされる



北に立ち、後円部から前方部方向を見る



北西から/この辺りが大分削られてしまっているところ



さて、墳丘を登り前方部から祠のある後円部を見る





後円部の墳頂にある祠



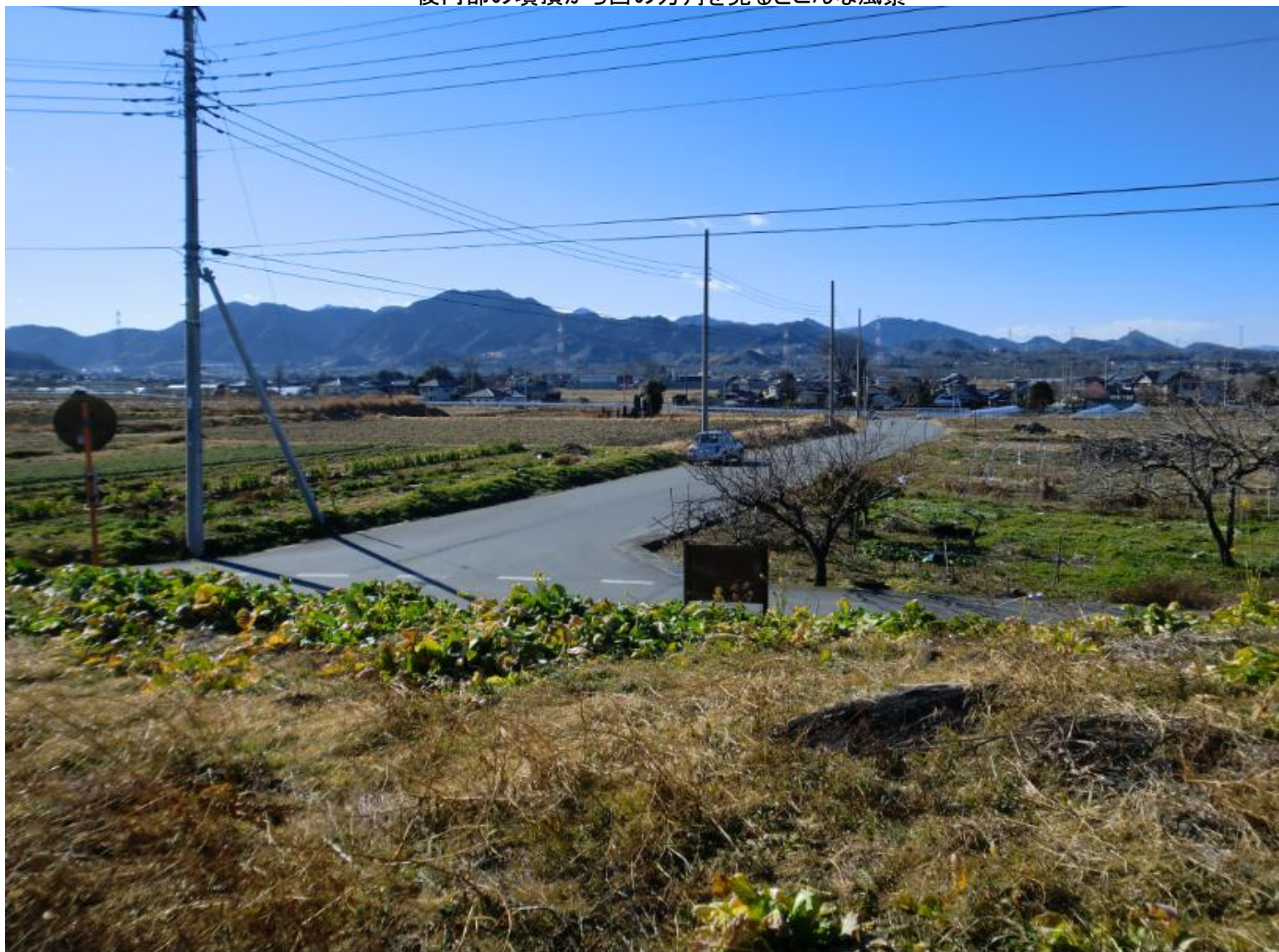




振り返って後円部から前方部を見る



後円部の墳頂から西の方角を見るとこんな風景



ところで後円部西側の墳丘法面には石室の一部であったかと思われる石(緑泥片岩か?)が散乱していた



後円部西側に片袖型の横穴式石室の入口があったとされる





参考ホームページ

<http://sgkohun.world.coocan.jp/SAITAMA/kamikawa/nakuwa.htm>

[http://www.asahi-net.or.jp/~fx3j-aid/kofun/saitama/57\\_kmkw/suwa.html](http://www.asahi-net.or.jp/~fx3j-aid/kofun/saitama/57_kmkw/suwa.html)

